

第17回 縄文楽検定 中級 解答集

令和7年4月作成

テキストから76%の出題でした。テキストの略称は以下のとおりです。

テキストⅠ：縄文楽検定テキスト『縄文文化と火焰土器』（信濃川火焰街道連携協議会、平成21年3月刊行）
 テキストⅡ：縄文楽検定テキストⅡ『信濃川火焰街道 縄文の旅』（信濃川火焰街道連携協議会、平成23年12月刊行）
 『あ、コレ知ってる！』：新潟県立歴史博物館編『あ、これ知ってる！はにわ どぐう かえんどのきの昭和平成』（新潟日報
 事業社、令和元年8月刊行）。
 日本遺産ガイドブック：『日本遺産「なんだ、コレは！」信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化』ガイドブック
 （信濃川火焰街道連携協議会、令和3年度改訂版 ※平成28年度版とは頁数が異なるので注意）
 『信濃川火焰街道連携協議会ガイドブック vol.6』（信濃川火焰街道連携協議会ホームページ）

No.	解	問題の出典と解説
1	d	日本遺産ガイドブックp25 縄文土器で指定されているのは新潟県笹山遺跡出土品だけで、他の5件は土偶です(北海道函館市、青森県八戸市、山形県舟形町、長野県茅野市(2件))。
2	c	テキストⅠ p5など aは津南町堂平遺跡出土の火焰型土器、bは三条市長野遺跡出土の火焰型土器、dは長岡市岩野原遺跡出土の火焰型土器です。
3	d	テキストⅠ p8、テキストⅡ p20 a昭和11年(1936)は馬高遺跡で「火焰土器」が発見された年、b平成2年(1990)は「火焰土器」が国の重要文化財に指定された年です。c平成7年(1995)は沖ノ原遺跡出土品が県文化財に指定された年です。
4	c	テキスト外 アとイは長岡市岩野原遺跡出土、ウは長岡市山下遺跡出土の火焰型土器です。 火焰型土器は、時代が新しくなるにつれて器形が縦長で、頸部のくびれが大きくなるとともに、鶏冠状突起が上に向かって高く伸びていきます。ウは鶏冠状突起が完成しておらず、4つの突起の大きさも不統一です。研究者によっては、これを火焰型土器に含めない人もいます。イとアは火焰型土器としての要素がきちんと揃っています。ウとは異なり、4つの鶏冠状突起が同じ大きさです。イは鶏冠状突起が低く横長で、器形も寸胴で古い様相を示します。一方、アは鶏冠状突起が縦に伸び、頸部がくびれた器形となっていて、より新しい段階に分類されます。
5	暦年	テキストⅠ p19
6	c	テキスト外
7	c	テキスト外 c長岡市岩野原遺跡から出土したものです。小形の石皿にクッキー状炭化物がのっています。d津南町沖ノ原遺跡でもクッキー状炭化物が出土していますが、沖ノ原遺跡のものは、丸い玉のような形状をしています。
8	c	テキスト外 分析の結果、ほぼデンブンの塊と判断されています。
9	a	テキストⅠ p14など 勝坂(かつさか)式と円筒上層(えんとうじょうそう)式は中期の土器型式で、加曾利(かそり)B式は後期、亀ヶ岡式(かめがおかしき)は晩期の土器形式です。勝坂式土器は西関東から甲信越を中心に広く分布し、円筒上層式は東北北部から北海道南部を中心に広く分布しています。
10	補修	テキストⅠ p17～18 補修孔(ほしゅうこう)と呼んでいます。惜しい解答として「修繕」「修復」というものがありました。意味としては通りますが、修繕孔、修復孔という用語はありません。

11	c	テキスト I p10
12	c	テキスト I p9
13	c	テキスト I p1
14	a	テキスト I p19など bは木製品の年代、cはイネ科の植物の同定、dは漆の分析などに主に使われます。
15		チョコレート テキスト外 ※火焰土器の国新潟p20 信濃川火焰街道連携協議会顧問である小林達雄・國學院大學名誉教授の命名です。板チョコが溝に沿ってきれいに割れるように、土偶も壊れやすく作られたと考えられています。
16	a	テキスト I p11 王冠型土器の短冊形突起には、左側に抉り(えぐり)が入るという共通した特徴があります。まれに左右両側に抉りが入るものもありますが、右側にだけ抉りが入るものは今のところ報告されていません。このことから、aを見ると写真の左右が反転していることがわかります。
17	b	『あ、コレ知ってる!』p26 「世界最古」級の土器は日本国内では16,500年前の大平山元遺跡ですが、国外では、現在、最古の土器とされるものは、中国湖南省の玉蟾岩洞穴から出土した土器で約18,000年前といわれています。
18	d	『あ、コレ知ってる!』p26 dの亀ヶ岡遺跡出土の左足の欠けた「遮光器土偶」は国の重要文化財に指定されています。
19	b	テキスト I p19～20
20	c	テキスト外 十日町市久保寺南遺跡からは、縄文時代草創期の隆起線文土器のほか、石槍をはじめとする多彩な石器群が出土しており、当時の生活の様子を知るうえで重要な遺跡です。土器に付着した炭化物の分析から約15,000年前という年代が得られています。
21	c	テキスト外 沖縄県立博物館・美術館の平成30年度特別展図録『縄文と沖縄—火焰型土器のシンボリズムとヒスイの道—』によれば、縄文時代のヒスイ製品は北海道から沖縄諸島まで出土しています。ヒスイの流通圏は土器や石器とは比較にならないほど広大であったことが分かります。
22	c	テキスト I p16～17
23	b	テキスト外 ※火焰土器の国 新潟p18 釈迦堂遺跡からは1,116点に及ぶ土偶破片が出土しています(ちなみに全国最多は青森県の三内丸山遺跡とされます)。c三条市吉野屋遺跡は、新潟県内トップクラスの土偶出土点数を誇りますが、それでも100点を超える程度です。a粥見井尻(かゆみいじり)遺跡からは、日本最古級、縄文時代草創期の土偶が1点出土しています。d棚畑遺跡は縄文時代中期の集落で、国宝の土偶(縄文のビーナス)が出土しています。
24	中期	テキスト I p2
25	d	日本遺産ガイドブックp15、テキストⅡp13,23など 馬高・三十稻場遺跡(長岡市)、沖ノ原遺跡(津南町)、藤橋遺跡(長岡市)は新潟県を代表する縄文時代の国史跡です。野首遺跡(十日町市)は国史跡ではありません。消去法で考えてみましょう。

26	雪国	日本遺産ガイドブックp2など
27	みなとぴあ	日本遺産ガイドブックp7
28	b	テキスト I p22 姫川流域周辺で産出する蛇紋岩は、縄文時代、特に磨製石斧の石材として利用されました。
29	c	テキスト I p21 c魚沼市正安寺遺跡出土の石棒は、中ごろに黒い帯あり、その上(先端方向)は赤く変色しています。これは被熱を受けた痕跡です。黒色帯の下は変色等がなく、その差が明瞭なため、ここが土に埋められていた部分だと考えられています。a十日町市芋川原遺跡出土の石棒は、渦巻き模様が陽刻されるもので、数ある石棒の中でも優品の一つです。b長岡市馬高遺跡出土の石棒は、側面が砥石のようにくぼんでいます。a～cのように、破損していない石棒は実は少数で、多くはd長岡市中道遺跡出土の石棒のように、折れた状態で出土します。
30	a	『あ、コレ知ってる!』p30
31	a	テキスト I p4、テキスト II p25など 火焰型土器が作られた時代の竪穴住居は、平面形が(楕)円形あるいは卵形のもの、そして長方形のものがあります。正方形やそれに近い形をしたものは、縄文時代前期に見られます(十日町市干溝遺跡など)。一方、三角形や星形の竪穴住居は見つかっていません。
32	撥(ばち・バチ)	テキスト I p21～22
33	d	テキスト外
34	d	日本遺産ガイドブックp6 d新潟市大沢谷内遺跡は縄文時代晩期の集落跡です。設問の土器の他にもアスファルト塊が出土しており、アスファルト加工を盛んに行っていたと考えられています。大沢谷内遺跡の近くの新津丘陵では原油やアスファルトが自然に湧出しており、縄文時代の人々も利用していたと思われます。
35	d	テキスト I p24
36	d	テキスト外 トチなど堅果類のアク抜き、樹皮や木材を貯蔵・加工するための施設と考えられるものを「水場遺構(みずばいこう)」と呼んでいます。新潟県内では、村上市元屋敷遺跡が有名で、湧水内に敷き詰められたイネ科植物の上に外皮を除去した完形のトチノミがまとまって出土しています。アク抜きあるいは虫だしのために水漬けしていたものが、何らかの理由で残置された可能性も指摘されています。
37	d	テキスト II p12 昭和30年(1955)栃倉遺跡の発掘調査で、日本海側諸県で初めて、竪穴住居跡の全体が発掘されました。竪穴住居跡の形状や、炉跡、柱穴の配置などを確認し、貴重な発見例となりました。
38	b	日本遺産ガイドブックp8
39	浮世絵	日本遺産ガイドブックp2、日本遺産ストーリー
40	b	日本遺産ガイドブックp9
41	b	テキスト I p21～22 消去法の問題です。b)石釧(いしくしろ)は古墳時代に使われた貝製腕輪をモデルとした儀器です。多くは古墳の副葬品として用いられました。
42	c	テキスト I p26 長岡市石倉遺跡出土の火焰型土器は新潟大学旭町学術展示資料館(新潟市中央区旭町通2番町746)に展示されています。
43	小林達雄	信濃川火焰街道ガイドブックp3
44	c	『あ、コレ知ってる!』p27
45	a	テキスト外、『珠玉の国 新潟 ヒスイ、青玉、赤玉、』p13、43、84

46	d	『あ、コレ知ってる！』p120
47	d	日本遺産ガイドブックP2
48	b	日本遺産ガイドブックP4
49	a	日本遺産ガイドブックp35・36
50	b	日本遺産ガイドブックP36